

# 新型インフルエンザについて

公立学校共済組合関東中央病院 院長 前川和彦

## インフルエンザとは

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって起こる感染症で、広い意味での「かぜ症候群」に含まれます。季節性インフルエンザとも呼ばれます。インフルエンザウイルスにはA、B、C型の3つの型があり、A型にはさらに多くの亜型があります。A型は人間のほか鳥、豚、馬にも感染することがあり、遺伝子の変化しやすいので新型のインフルエンザはすべてA型から誕生しています。東南アジアで多発し致死率の高い高病原性インフルエンザはA/H5N1型で、今回、話題となっている新型インフルエンザはA/H1N1型です。わが国での流行当初は、新型インフルエンザウイルスの病原性が判らなかったので、機内検疫などの水際作戦や発熱外来の設置など高病原性インフルエンザ対策に準じた対応がとられました。しかし、病原性が低いことが次第に判明してきて、こうした措置は徐々に解除されています。

## 新型インフルエンザの予防

インフルエンザは、主に罹<sup>りかん</sup>患している人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫<sup>ひまつ</sup>と共に放出されたウイルスを鼻腔や気管などに吸入<sup>ひまつ</sup>する(飛沫感染といいます)、または手に着いたウイルスが鼻、口、目などを介して体内に入ることによって感染が成立します。予防策としては、自らの健康に留意すること、**人ごみを避ける**ことなどの一般的な予防策に加えて、人ごみでは飛沫を吸い込まないように**マスクをする**、ウイルスが付着しているかもしれない**手を良く洗う**ことなどが推奨されます。季節性インフルエンザワクチンは新型インフルエンザには殆ど効果がありませんので、目下、WHOを始め各国が新型インフルエンザワクチンの製造を推進しています。



## 新型インフルエンザの診断

上記のような症状と、新型インフルエンザが流行している地域への旅行歴や発病者との接触歴を尋ねます。鼻粘膜<sup>いんとう</sup>や咽頭粘膜<sup>さっか</sup>を綿棒で擦過し、綿棒についたウイルスの型をインフルエンザ迅速診断キットで調べます。新型インフルエンザの確定診断は、迅速診断キットでA型と判定し、更にウイルスのDNAを調べるPCR検査を行う必要があります。

このPCR検査は流行や重症化をモニターする目的で決められた医療機関(定点といいます)でのみ、限定的に行われています。



## 新型インフルエンザの症状

基本的には季節性インフルエンザの症状と変わりはありません。鼻水<sup>いんとうつう</sup>、咳、咽頭痛<sup>いんとうつう</sup>などに加えて突然の**発熱**、**筋肉痛**、**全身倦怠感**などの全身症状が強く出ることが特徴です。今回の新型インフルエンザでは下痢、嘔吐などの消化器症状が多くみられたとの報告があります。



## 新型インフルエンザの治療

大多数の人では特に治療を行わなくても約1週間で自然治癒します。しかし、乳幼児、高齢者、基礎疾患をもつ人、妊婦などでは、気管支炎、肺炎などを併発したり基礎疾患の悪化を招いたりするなどして、最悪の場合、死に至ることもあります。

**休養**、**睡眠**、**栄養**、**水分補給**

など病気に際しての一般的な療養が大切です。市販の感冒薬、解熱薬などは鼻水、咳、発熱などの症状をやわらげることはできますが、インフルエンザウイルスに効くものではありません。適応のある場合には抗インフルエンザ薬の「タミフル」、「リレンザ」が投与されます。

